

令和8年度 第1回福井市行政改革推進委員会 会議結果

- 1 開催日時 令和8年5月27日(水) 10:00～12:00
- 2 開催場所 市役所本館8階 第1委員会室
- 3 出席者
- (1) 委員 井上 武史 委員(リモート出席)、景山 直恵 委員、竹川 充 委員、竹中 忍 委員、田村 洋子 委員、前田 聡一郎 委員、三寺 潤 委員、宮下 麻衣子 委員、安岡 清至 委員、山崎 栄一 委員
- (2) 事務局 総合政策課、職員課、行政DX推進課、移住定住交流課 ふるさと納税推進室、財政課、市民課

4 会議次第

1 開会

2 議事

- (1) 委員長及び副委員長の選出、委員会の概要説明
- (2) 令和7年度 第2回持続可能な財政運営専門部会の会議結果〔報告〕
- (3) 「福井市行財政改革指針(令和4～8年度)」令和7年度の実施結果〔報告〕
- (4) 「福井市行財政改革指針(令和9～13年度)」の策定方針
- (5) 「福井市行財政改革指針(令和9～13年度)」の策定に向けた意見聴収
- (6) その他

・令和8年度 行政改革推進委員会開催予定

3 閉会

5 議事の概要

事務局	(1) 委員長及び副委員長の選出、委員会の概要説明 議事(1) 委員長及び副委員長の選出について、「福井市行政改革推進委員会規則」第4条2項の規定により、委員長及び副委員長は、委員が互選することになっているので、協議をお願いしたい。
委員	事務局の方に案があるのなら示してもらうのが良いのではないかと。 (「意義なし」との声あり)
事務局	事務局案としては、委員長に三寺 潤委員、副委員長に田村 洋子委員をお願いしたい。 (「異議なし」との声あり。事務局案のとおり委員同意を得て、委員長席へ移動)
事務局	福井市行政改革推進委員会についての概要を事務局より説明する。 【資料1に基づき説明】

	今ほどの説明にございました、専門部会の内部委員について、三寺委員長から委員のご指名をお願いする。
委員長	令和8年度から9年度の持続可能な財政運営専門部会委員として、名簿順に、井上委員、田村副委員長、山崎委員にお願いしたいと思う。 (「異議なし」との声あり)
事務局	それでは、議事(2)に移る。規則第5条の規定により、委員長が議長となり議事を進行することとなっているので、以降の議事進行は委員長にお願いする。
委員長	(2) 令和7年度 第2回持続可能な財政運営専門部会の会議結果 それでは、議事(2) 令和7年度 第2回持続可能な財政運営専門部会の会議結果を報告させていただく。昨年度3月24日に開催された部会では、事務局から資料2-1に基づき財政計画の取組報告があった。全体としては、収支均衡した財政構造の継続と財政調整基金残高の目標達成に向けて継続して対応している様子であった。また、委員の皆様からは財政調整基金の積立に対する関心の高さがうかがえた。 委員からの主な発言については、資料2-2をご覧ください。 【資料2-2に基づき説明】 まず、当初予算の分野では、ふるさと納税の寄附金が増加している要因について質問があった。 こちらに対して、事務局からは、ポータルサイトの拡充や、魅力的な返礼品ラインナップの充実と情報発信によって、ふるさと納税額が増加していると考えられるとの回答があった。 続いて、財政指標については多数の質問があり、まず1点目、財政調整基金の積立額の目標達成には、経常的な経費に切り込まないと難しいのではないか、という厳しい指摘があった。さらに、今後、基金残高が下がる危険性に対する質問や、令和5年度までの財政調整基金積立はコロナ交付金のおかげで、今後は厳しいのではないか、との指摘があった。加えて、予算査定が甘くなっているのではないかとの質問があった。 これには、人件費・扶助費は義務的な経費で、ここに切り込む余地はないこと、喫緊の積立の目標達成は厳しい状況にあるが、これまで取り崩しはしていないこと、今後の予算の執行状況等を踏まえながら、着実に積み立てていきたいとの回答があった。 また、取組の達成結果についても多数の質問があった。皆様の関心が高いチャレンジみらい予算、こちらに代表される若手職員の活用に関する取組についても質問があった。 事務局からは、自所属以外の業務にも携わることができる20%ルールで活動を活発に行っており、それを促すような問いかけをしている、との回答があった。 以上、たくさんの質問に対して適正な回答があり、今後も引き続き慎重に取組を実施していくことの確認ができた。 全体の取りまとめという形で報告させていただいたが、何かご質問等はないか。 ご質問はないようなので次の議事に進む。

委員長	(3)「福井市行財政改革指針(令和4～8年度)」令和7年度の取組結果 それでは、(3)「福井市行財政改革指針(令和4～8年度)」令和7年度の取組結果について事務局から説明を。 【資料3-1に基づき説明】
委員長	ただいまの報告に対し、質問等はないか。 取組評価も天氣のマークでわかりやすく表記している。曇りマークの数値を見ると達成状況に近い。数値目標が100%のところ、実績が99%、これをどう評価するのか考えなければと改めて感じた。例えば、公共交通の取組の評価では、状況に合わせて数値目標を見直すことも国から求められている。今年度どうするかというところはあるが、次の指針では、臨機応変な評価のあり方を模索してもよいのではないかと思う。
委員	取組内容の報告を聞いて、人のことを考えた政策を行っているという印象がある。 昨今、AIの活用によって、特に中小企業で意思決定が早くなっている。ウェブサイト作成の商談の際、その場でAIを活用して進めることですぐに決まっていた。今までなら、納品に3週間かかっていたものがすぐに決まる、それくらいの意志決定速度になっている。 一方、別案件で大きい企業に研修に入った際、全員Copilotを使えるものだと思っていたが、実際には使えない状況だった。早いところ遅いところの差が生じているように感じる。民間としては、行政の意思決定の遅さが今後顕在化するのでは、と危惧している。 AIのリテラシーやガイドラインの整備状況など進捗具合はいかがか。
行政DX推進課長	ChatGPTが2022年11月にリリースされてから、福井市としても生成AIは活用すべきとして、2023年2月に生成AIのガイドラインを定めた。その後、2025年1月に導入したCopilotは、公表していない情報を入れても漏れることはないことを確認を得たため、生成AIのガイドラインを改訂して運用している状況。
委員	みんな使っているような状況か。
行政DX推進課長	具体的な使用状況までは確認できないが、使い方を教えてほしいという質問は増えている。プロンプトなどのノウハウについて学べる研修を、年に数回実施しており、少しずつ広がりは見えている。
委員	エージェント型を使っているのか。
行政DX推進課長	一問一答の会話型を使っている。
委員長	意思決定に関して行政は段階を経なければいけない部分もあるが、意思決定の迅速な対応と、AIを活用して効率化し業務時間を生み出す点は重要な指摘だと思う。常に新しい技術を学ぶ必要があるが、研修があっても全員に対する研修ではなく、主体的な参加を促されるものであるため、実際には、得意な人だけがより得意になるという矛盾も感じる。

委員	目標自体は達成しているがテレワークの推進が気になっている。部署ごとにばらつきがあり、職員の数でみるとまだまだ少ない。業務の性質上やむを得ない部分もあるが、加速させる方法もあるのではないかと。いきなりテレワークは難しくても、例えば、フレックスタイムやフリーアドレスのような周辺の仕組みとつながることで、テレワークも広がっていくように思う。実績が少ない部署に関しては、職員の話し合いや実施可能期間を設定するなど、実験的に取り組むことも一つの方法で、積極的に進めてほしい。
職員課長	テレワークは、確かに部署ごとの偏りが大きい。内部事務が多い総務部は比較的テレワークがしやすく進んでいる。市役所は、市民の方々が来られるため、進みにくい面もあるが、書かない窓口が進めば、おのずと窓口対応が少なくなり、テレワークも可能になると考える。 もう一点、昨年度から私用端末でもテレワークできるように変更したことで、端末不足の問題が解消できた。さらに、今年度は申請手続きを簡略化したため、増えていくのではないかと。
委員	フレックスなどの働き方についても、国や県レベルのように進めていただけると良い。
委員長	福井県ではフリーアドレスも進んでおり、端末もiPadが配布されていたように思う。物理的な制約をどのように解消するかは難しいが、庁内での工夫もできるのではないかと。
委員	大学の立場では、職員採用について興味がある。公務員志望の学生は、毎年一定程度いる。行革の数値目標は達成していて問題はないが、今後さらに、公務員離れや民間志望、民間の早期選考が進んでいく可能性がある中で、市としての考えを教えてください。
職員課長	公務員離れは実感している。早期に就職を決めたいという学生のニーズに合わせた形として、昨年度、大学の技術職に限り大学推薦枠を設けた。その結果、獲得に苦慮していた技術職に4名の方から応募があった。 学生は早期に決定したいという思いが強いことがわかり、少しでもそれに応えていけるよう、さらには安心して就職してもらえよう、不安の払拭に努めていきたい。
委員長	確か、県では大学3年生で採用決定の仕組みが始まった。難しい部分もあると思うが、学生にとっては、多様な働き方の選択ができるということは重要でもある。試行錯誤しながら、変えていけばよいと思う。
委員	多様な人材の確保のところで2点気になる。 1点目は、多様な雇用形態について。厚生労働省の推測では労働力人口の減少が示されているが、実際の就業者数は横ばいである。この差が何かということ、シニア層の働く機会や働きやすさ、女性だけでなく男性も含めた働き方改革を積極的に進めているところには、人が集まっているということ。他県では、時短勤務の募集に女性の応募が殺到したということがあつた。人材とは、家庭のある方や学生、経験者、技術職など様々だと思うが、雇用形態に柔軟性があると、より間口が広がると感じたため、そのあたりを聞きたい。 続けてもう一つ。女性のキャリアに関して、今後、女性管理職の割合が増える見込みとある。予測と目標について、数値化しないと具体性に欠けるのではと気になっている。 以上、2点についてお聞きする。

職員課	1点目の多様な雇用形態だが、公務員の定年年齢が令和14年に65歳となる。65歳まで同じ状態で働き続けることは難しい方もいるため、フルタイムだけでなく短時間の再任用も選択できる仕組みとしている。また、60歳を超えた方には働き方の配慮をするよう所属長に依頼しているところ。ほかにも、お給料に影響はあるが1日のうち何時から何時まで勤務時間を短縮して働くという形態に加え、休憩時間を短縮して勤務するなど制度は充実しており、今後周知を徹底していきたい。公務員も働き方の選択肢は増えており、いかに活用していくかが課題だと考えている。 もう1点、女性管理職の割合は、令和7年度21.8%、令和8年度に22.8%となった。目標を25%と設定し、管理職の4分の1を女性に占めて欲しいと考えている。令和11年度ぐらいには、目標を達成したく、あと数年という目標でいる。
委員	今年4月、就学途中のお子さんがいる女性が、本学の社会人向け大学院に入学された。子育ても家事も大変だが、まだまだ学ぼうという意欲があり頑張っている。感想になるが、彼女をロールモデルとして後に続いてもらえるとよい。
委員	入口のところで選べる、というのが希望になると思う。
委員	人材の話について、別の側面からも情報共有したい。 福井市の人材育成計画を見たところ、しっかりした内容になっていて、採用も頑張っている印象がある。ただ、採用できていても、団塊ジュニア世代の大量退職が起こると管理職の年代が一斉にいなくなる。そうなると中間層を管理職に引き上げる。その結果、若手を教える中間管理職がいなくなり、教育ができずに事故が起こる。これが問題点であるため、新採用だけでなくキャリア採用など、バランスのよい人選が大事ということを補足したい。
委員長	バランスの良い人材配置というアドバイスであった。参考にしてもらえると良い。
委員	似たようなお話になるが、時代の移り変わりが速くなる状況下であって、リスクリングなど実施していると思う。バランスという話が出たが、リテラシーレベルが揃わなくなるという懸念もある。例えば、ITパスポートや、資格取得の奨励・支援など、職員のリテラシーレベルをある程度揃えるという点が重要と考える。参考にしてもらえたら。
委員長	新たな視点であり、参考にさせていただければ。それでは、次の議事に移りたいと思う。
委員長	(4)「福井市行財政改革指針(令和9～13年度)」の策定方針 続いて、(4)「福井市行財政改革指針(令和9～13年度)」の策定方針について事務局から説明を。 【資料4に基づき説明】
委員	市民や職員からの意見募集とあり、おそらくAIなども入ってくると思われる。まず市として、

総合政策課長	どのように対応していくのかが明確でないと、各部署も何ができるのなかなか読めないと思う。もちろん所属の調査は必要だが、市としての姿勢というのか、積極的に後押しするものを示すと良いのでは。 委員のご意見を踏まえながら、市民や職員からご意見をお聞きして取り組んでいきたい。
委員長	(5)「福井市行財政改革指針(令和9～13年度)」の策定に向けた意見聴収 それでは、(5)「福井市行財政改革指針(令和9～13年度)」の策定に向けた意見聴収について事務局から説明を。 【資料5に基づき説明】
委員長	委員お一人ずつ順番にご発言いただき、質問があれば事務局から回答いただくという形で進めたい。
委員	少子高齢化問題について、全国に先駆けて特別な課などを作って取り組む姿勢が必要だと考える。最近、企業の廃業が多い状況だが、一番の要因は後継者がいないこと。地域の話になるが、自治会長になると行政嘱託員としての役割など年間190時間もボランティアとして活動しているというアンケート結果が出た。手当もわずかで、自治会長のなり手がいないのは当然でもある。今度、防災庁ができるが、現実には、ボランティアとしての活動がさらに増えると想定され、地域そのものの存在がますます危ぶまれる状況になると思う。 企業や地域の状況を踏まえると、今後、福井市をどう維持していくかという大きな話でもあるため、少子高齢化の政策に集中して取り組めるよう、今回の行革に据えてもらいたい。 もう一つ。市民が1人減ること、どれだけの財源が失われるかという指数はどこも出していないが必要だと思う。福井市への貢献や税金を納めるということも考慮しながら指標を出すなど、市民にわかりやすい行財政計画にしてほしい。
委員長	とても重要な指摘であり、どうあるべきか庁内でも議論いただきたい。続けてお願いします。
委員	組織づくりや人材育成に関する部分で、現在、若手職員がアイデアを出して事業を実施されていると思うが、この枠をもっと広げて、例えば、働きやすい環境づくりということで、ウェルビーイングや健康系のテーマを設けて、組織横断型のプロジェクトチームによる事業展開など検討していただきたい。 また、魅力的なまちがあつてこそ、いろんな方が集まり、こどもも生まれ、人口が増加するという流れになってくると思う。魅力的なまちづくりのプロジェクトチームなどを庁内に設けて、若手だけでなく、もっと幅広い層のアイデアを取り組むと良いのではないかと。
委員長	すでにいろいろな取組をしているところだが、さらなる取組ということかと思う。
委員	日々、試行錯誤しながら取り組んでいることを、もっとオープンにしていくと良い。今回実施しているような市民からの意見募集を、ご意見窓口として終わらせないことが大切。市民と行

	政と一緒に取り組むためのアイデアなどをたくさんもらえるよう、日頃から「市の職員は一緒にやってくれる」という関係性を市民と築いておく必要がある。 特に若い世代に対しては、ボランティアやプロジェクトなどに共に取り組んで、「提案すれば実現できる」という体験を提供し、そして情報をオープンにしていくことが重要だと考える。
委員長	冒頭でも、人に寄り添った取り組みをしているとの話があった。情報発信の点では、知らない市民も多数いるのではないかと。市民が、自分事として参加できるような体験の共有は良いと思う。
委員	市民サービスのさらなる向上に関する取組について、サービスデザインの視点から話をする。デジタルソリューションなどを導入する際、制度設計やその後の保守運用についてはしっかり協議するが、市民に喜ばれているか、職員にとっても使いやすいか、といったユーザビリティの部分は後回しになりがちである。 保守のしやすさだけでなく、データなどを収集・解析して改善につなげるという、「フィードバックループ」を組織の標準的な仕組みとして持っておくことが、市民サービスのさらなる向上につながると考える。実際にはどうか。
行政DX推進課長	サービスデザインの変更という話だが、本市では、まだサービスデザインに特化した考えは持っていない。DXの担当所属では、東京都など先進都市のガイドラインを参考にしてはいるが、一般職員にはまだ広まっていないため、今後考え方など参考にしていきたい。
委員長	重要なご指摘で、技術の進展とともに新しいあり方を模索する必要があると思う。このあたりの取組も検討をお願いしたい。
委員	まず、行政課題に対応できる組織づくりとしては、配置の面でいかに職員の希望に応えてあげるかが重要だと考える。希望調査はしているものの、希望に沿えない場合もあると思う。また、若手職員の早期退職件数も多くなっているように感じる。例えば、AIでマッチングのようなことをして、職員の配置にも活用できるのではないかと。 2つ目、市民サービスの向上では、以前、郵便局の取組を調べたところ、郵便局がオンライン窓口を設置して、行政につなぐサービスも可能とあった。申請のオンライン化は大事なことが、実際は対面希望の方もいる。市役所が遠い方などは、まず身近にある郵便局や公民館に行き、そこで本庁舎にいる職員とテレビでつながることもできるのではと思っている。これは一例であるが。 最後、持続可能な行財政運営に関しては、地域自体が持続しなければ行財政にもつながっていかないと思う。地域住民との協力関係の構築が重要となってくる。先ほどから職員提案の話があるが、市民からも様々な提案、また実行まで含めた提案をいただくと良いのではないかと。
委員長	3つの柱それぞれにコメントをいただいた。話を聞いていて、重なる部分もあるような印象を持った。まとめ方、アウトプットのあり方など、少し工夫されると良いと思う。
委員	いろいろな取組をしているが、市民に伝わっているかという点では宣伝、発信しきれていな

総合政策課長	いように思う。この「理想の市役所」募集の取組は、今回初めて知った。とても良い取組だと思うが、5月21日時点で回答数がまだ36名とのこと。どのように発信したのか。 市のホームページ、プレスリリース、市のLINEなどで発信した。
委員	このタイトルで検索したところ、Instagramで紹介している方のものが最初に出てきた。ホームページもLINEも最初に出てこない状況だったので、発信の方法を工夫してはどうかと思う。また、回答者の年齢層も高めであるため、若い人向けには、ハピコインなど回答のインセンティブになるようなものを活用すると良いのではと思った。 もう1点、ペーパーレスの話になるが、このような行政の会議では、毎回必ず名刺交換させてもらう。行政は3年から5年周期で異動があり、同じ方から何度も名刺をいただくこともある。一方で、民間はあまり異動がなく、記載内容は役職が変わる程度。個人的には、念のため紙の名刺を用意しているが、基本はデジタル名刺を使っているという状況。 市職員の異動サイクルや役職にもよるため一概には言えないが、福井市職員は約2,000人で、全体で見るとかなりの枚数を使うことになると思う。名刺は小さいものだが、行政から少しずつペーパーレス化を進めなければ、企業も進まないように思う。すぐに対応は難しくても、徐々に移行してはどうかと思う。
委員長	具体的なお提案をいただいた。過去に、この委員会でも、情報発信や広報というテーマで、議論をしたが、もっと強化が必要であると改めて感じた。また、デジタル名刺に関しては、その場でスキャンすれば、自分のストックに入ることになる。新しくて面白い提案だった。
委員	本学の学生が、クリエイティブクイアブローウィンズなど市の活動に関わらせてもらっている。時に行政の論理になっている状況が見受けられ、入口のところで若者や市民と行政が十分に意見交流できていない点が問題だと感じる。やっていることを否定しているのではなく、一方通行ではなく双方向に意見が積極的に出てくる対話型を目指すことが、市としてのプレゼンスを高めると考える。 行革にどう関わるかは不透明だが、人と人が、どのようにうまく交わることができるのか、などのアイデアをお伝えできればと考えている。
委員長	特に、若者と行政が双方向でやり取りをして、境界を緩やかにするという内容のお話だったと思う。何かあれば、またお願いしたい。
委員	総務省によるフロントヤード改革の状況報告によると、福井市のオンライン化は80%、オンライン申請率47%と約半分以上をオンラインで手続きしている点が素晴らしい。新聞に大きく掲載されるほど頑張って取り組んでいることをもっとアピールすると良い。 今回の理想の市役所をデジタル中心に進めるには、リソース、経営資源が必要となってくる。福井市の財政計画を見ると、第四期の情報システム運用平均額は約10億円とのこと、この額が多いのか少ないのかが重要な点である。実際のところ、デジタル化を進めたことで、オンライン申請率などの定量効果に加え、職員にも定性効果がでていく。また、平成30年度頃まで総務省が統計を取っていた値があって、1人当たりのデジタルにかかる平均経費が約3,700円で、約4,000円とする。福井市の人口約25万人で計算すると、10億円となり妥当

	な金額だと考える。 人材とか資格の話も出ているが、モチベーションや行政に対する仕事の考え方をしっかり伝えていくことも大事だと思う。そのほか、新しい技術を使うには価値観もかえていかないといけない。若者はすぐに変わるが、上の年代は変わらないため、上の世代の人材計画もしっかり取り組む必要がある。行財政計画と、もろもろの計画の足並みをそろえると、より実効的なものになると思う。 もう1つ別の側面、財政面の話になるが、長寿命化について。福井市は橋梁の長寿命化にしっかり取り組んでいる。ライフラインもストックマネジメント計画があり、それも当然やらなければならない。加えて、施設マネジメントなどにも費用がかかる。行財政という視点からは、新しいものだけでなく、やるべきことなどプライオリティを見定めると、よりよい実効的な指針になると思い申し上げた。
委員長	定量的なわかりやすい例えがいくつかあったが、こういうものをうまく情報発信して活用すると良い。また、プライオリティの話についても、どのように見える化、試算するのは難しいが、明確にやっていく必要があると感じる。最後、ご意見を願います。
副委員長	市民に寄り添った指針を作っても、市民の気持ちが上向きにならないことには、どうしても「行政の仕事は行政がやるもの」という感覚から抜け出せず、行政に頼りすぎてしまう面がある。人口が減少していく中でも、行政と市民が一緒に地域を盛り上げるという姿勢で臨まなければ、地域の持続可能性は実現できないと、と改めて感じた。 また、若手職員の意見は大変素晴らしいものであり、管理職年代の経験を聞くことで、さらに人間らしさの芽生えも出てくると思うので、年齢差を越えた意見交換なども重要になってくる。最後、感想になるが、人口減少はみんなで一緒に考えていきたいテーマである。
委員長	たくさんのご意見をいただいた。皆様のアイディアは大変有用で、うまく整理されれば、即実行できるものも多いというのが感想。加えて、市民が自分事としてとらえることができる工夫、特に情報発信の方法が重要になってくると思う。ほかには、最初に委員がおっしゃった、少子高齢化に真摯に向き合っていくための関連部署を作るということも、その一歩かもしれない。自分事としてとらえるための工夫を、市にやってもらうだけではなく、自分自身がそこに加わることができるという見せ方をぜひ検討してほしい。 今回の「みんなの理想の市役所」は非常にキャッチーなフレーズで、市民の方々からの意見募集も残り1週間もない。この機会に、マスコミの方にはぜひ記事にしてもらうこととあわせて、さらなる情報発信をお願いする。今日いただいたご意見の整理をよろしく願いたい。
委員長	(6) その他: 令和8年度 行政改革推進委員会開催予定 議事(6)その他に移る。事務局から何かあるか。 【資料6に基づき説明】
委員長	今の説明に対して、ご質問はあるか。 特にないようである。それでは、全体を通してご質問やご意見があれば。

委員	全国的に見て、福井市のDX化はどの程度か。IOが最高として、IO段階でお聞きたい。
委員	IO段階で見たとき、5はクリアしなければならない当たり前の基準。国が示す自治体DX推進計画や手順書は毎年改正され、実施しなければ段々遅れてしまう。そういう面では、なんとか付いていっている状態が5だと考える。一番大事なのは、デジタル化することが目的ではなく、それを使ってもらうことだが、その利用率が福井市は5割ある。5割あるということで、定量効果だけでなく、職員にも定性効果、いわゆるデジタイゼーション効果も出てきている。以上のことから、IO段階のうち8ぐらいかなと思う。 ただ、終わりが無い世界でもあり、先ほどヒトモノカネの話をしたと思うが、モノの中には情報のインフラと同時に、セキュリティも対策も含まれる。サービスが増えることに伴い、脅威も増えるため、その対策も必要となってくる。どこまで費用をかけるのか、ということをプライオリティという言葉で表現したが、いろいろと考えなければならない時代になった。
委員	評価点は同じく8だと考える。福井市は、基本的にやらなければならないところは楽々クリアしているように見える。セキュリティの部分は課題になると言われていて、いちごっこで実際は大変だと思うが、我々もお力添えできたら。
委員	このような高評価のご意見を聞くと、一市民として誇りに思える。
委員長	シビックプライドとも言うが、誇りをどう持てるか、それが自分事なのかなと改めて思った。そういう見せ方の工夫を、このメンバーでもぜひ一緒に考えていけたらと思う。ほかによろしいか。
委員	参考だが、自治会では福井市の協力のもと、3年かけて全世帯が導入できるデジタルサポートのアプリを作り、だいたい6割ぐらいの世帯が導入している状況である。福井市の全地域に、このタウンデジボを案内しており、説明会も全地域で実施している。自治会長の負担軽減になるこのアプリを利用して、広報紙はぜひタウンデジボでご覧いただきたい。このシステムは、市役所の負担軽減や経費の削減にもなっている。 県内では、福井市、大野市などがタウンデジボを取り入れており、これから福井県全体に広がっていきたいと思っている。自治体からは自治会に個人情報を提供することはできないが、地域では共有ができる。雪が降ると、自治会長が一人暮らしの老人の家の雪下ろしやっているのが実情だが、都会にいるその老人の家族にもタウンデジボを利用してもらうことで、安心安全の絆を地域に広めることができると考える。また、それがこのアプリの役割だと思っているため、ぜひ、活用していただきたい。
委員	実際に使っているが、住んでいる地区と自治会、それぞれのお知らせが届くようになっている。また、ごみの分別のお知らせも届き、とても便利だと思った。
委員	せっかくなので少し補足したい。ある市が、一昨年前にタウンデジボのようなシステムを買ったが、使いにくくて広がらなかった、というマイナスイメージの新聞を目にした。 先ほどデザインの話があったが、今回一番大事なポイントは、自治会側と業者が一緒に協議して作ったという点だと思う。福井市はプロセスもしっかりやっている。デザインも大事な

委員長 事務局	が、それ以前の進め方や、特に高齢者の方などに優しいところなどもアピールするとよいのではないかと。 このアプリの話を聞いて、すぐに入れようと思った。あわせて、やはりプロセス部分の可視化のところも、すごく大事なと思う。この委員会には、本当にたくさんの専門家がいらっしゃるということを、改めて認識することができた。やはり発信の仕方が宿題、ということで反映などお願いしたい。 たくさんご意見をいただき、非常に有意義な時間になった。これをもって議事の方は終了する。ここで進行は事務局にお戻りする。 ここで補足させていただくと、理想の市役所に関する意見は、現時点で約50件集まっている。今ご意見をいただいたところだが、ほかにも何かあれば、ご回答をお願いしたい。 長時間ご審議いただきありがとうございました。 以上で終了とさせていただきます。 （12:00終了）
-----------------------	--